

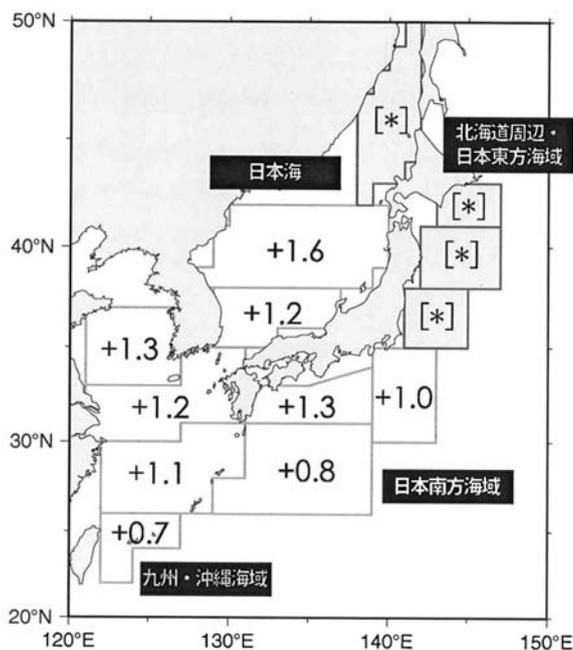
海洋の健康診断～日本周辺海域の海面水温の長期変化傾向について

気象庁では、地球温暖化などの気候変動の監視の一環として全球平均気温や全球海面水温、我が国の気温の長期変化傾向を発表しています。

平成19年5月、過去約100年（1900～2006年）の船舶による観測データを解析し、日本周辺海域における海面水温の長期変化傾向の実態として、100年あたりの上昇率を約10の海域単位で初めて明らかにしました。

主な結果は以下のとおりです。

- 九州・沖縄海域、日本海の中中部および南部、日本南方海域における、年平均海面水温の上昇率は100年あたり $+0.7\sim+1.6^{\circ}\text{C}$ です。この値は世界の年平均海面水温の上昇率（ $0.5^{\circ}\text{C}/100$ 年）の1.4～3.2倍です。
- 黄海、東シナ海、日本海南部、関東の南、四国・東海沖北部の年平均海面水温の上昇率は日本の年平均地上気温の上昇率（ $+1.1^{\circ}\text{C}/100$ 年）と同程度となっています。
- 先島諸島周辺及び四国・東海沖南部の年平均海面水温の上昇率（ $+0.7\sim0.8^{\circ}\text{C}/100$ 年）は日本の年平均地上気温の上昇率よりも大きくなっています。
- 季節別の海面水温の長期変化傾向は、冬季（1～3月）あるいは秋季（10～12月）に上昇率が大きくなっています。



日本近海の海域平均海面水温(年平均)の長期変化傾向(°C/100年)

『*』とあるものは、統計的に有意な長期変化傾向が見出せないことを示します。

オホーツク海域(網走沖)は1960年代以前のデータ数が少ないため、解析の対象外です。

詳細については、気象庁ホームページ (<http://www.jma.go.jp>) 上の関連報道発表資料、及び気象統計情報の「海洋の健康診断表(海洋の総合情報)」をご覧ください。